

春暁と云歌よの去留と云よりとて一會と云
方よりと彼中權筆と云歌よの志ののりてと
つよ赤川と云は權筆とて派と判者いすりや
れりて進退と云ありて夫斗界を自今以後
懸紙たりて何れもて好侍平右今集人孫方
又よと云そと下れいかりとれいあまひ志う
彼あよと云るうよと云ふ侍人乃心誠を今
し也思ひ志う侍ぬま

右借請參議藤原元長筆跡平少時永正五年九月

上尚之此令書寫し訖 城南男山隱士宗勝五判

右形原書以舊筆一借藏平書寫以原田茂諸平授合畢

蓮世書狀

長てりよ十首所欽合よふゆりくおわしりて
いまこん及いぬよ一日來人けしすゆりておんく
かちりいり申よ蓮世書六首きて勝とうけ給
りしん且面目身にあまりて悦水の四首の負文よ
いひこらんよあらん但判のよしと定れん
おんよと取て侍りつらとといふうおけつるん
くもはらと志向しん
十者元
春八分と後りらり夫の承を井遠よと約ハハ
案のちに念とを約と判者雜りていなる識より

卷三十三

六十一

ありのほしてゐることを先達や傳へる事なりとて
一し件集の漢字にうつして類乃難をうつさず
なりはつかもるゝの初は鶴鴨にまるとしてゐる
其をを題目ゆゑ詠しらん何の彼まの病に
らへるまやふらんて漢字のふしを
非しんり識りてまをたはまはしめ
沙法ら事としていれらまはしめ字の更にて
りよしをちりてすしんら建保内裏撰を合
けらるゝあま志くしなげあまひよそ川橋
定意に判しし世前ねの字と難やあまひ

志文は合の所秘合し別者恐然の休し
下白木志しりていならしと言ふ知し
もるに難を用ら後らきも又ち知し
らあしといひし程り今と今胡といひ
りしといひさるは為教胡は今度す
次子
を知るは合しをぬる昔野山たの
世字と詠しんりてまをたはまはし
何のあやめをわらうていらん
表れししをながゆりては彼と用
是と控らる

其智もゆるや元初を奉らむとほしむら
 ころいと志ろくわらまじらんいふくまらふら
 沖代まいたけく老病成形しあは事なきを
 も身むしみのぬのうけ所なきおのひ給ひの在^{下野}終は
 りいつの嘉如衣袖さえても續ていさる判りもすし
 道はわたりまうて日よあまひくやハハハハハハハ
 ーとと海ふのよりのりとも^{後醍醐}元仁の比九条前田は
 らくよふ子道はをゆらく事は比若中し前
 大納言

上履の衣もしくもさひさる履は白雪

家忠歌長

系不始乃思方の履もうん衣もさうかたぬ春風とま
 くぬ人まをの初らう原おりのあやあは衣もさ今
 集らら出らあはてはへ今もさう用ひいん^集難
 をへさよいひと早春時寒うし乃公おまうらるん
 介と共ぬ有よ美へくひ^{後醍醐}や寛元二年判りて
 ーやらん元俊入道^{一前}終てく今く百首歌をゆ
 すら事れやーも為氏にひのあゝの衣もさ
 中て流らるとおひいひのあゝの衣もさ
 一履の衣もさまうしーとと海入らるうら子五百首歌合

又頭昭吉妻の^也者より先見後也信より浮流系定家郷
 判之九^分者より出とつる浪も^とをりて^りく^れた^り可^し
 ひ^しく^し事^ハ信^分作者^ハ人^及も^こら^る事^もや
 信^分人^建仁^二年^九大^将家^百首
 而^ハ加^レれ^ル事^ハ久^シク^シの^後と^見後^とは^物日^より^もた^り可^し
 正治二年内大臣家言合^下
 物^を人^とし^たる^の後^と見^後と^は物^日よ^りも^たり^可
 後^者昨^ハ今^更徐^々離^逃進^退種^打公^見渡^河東^洛眺^望
 心^大略^相同^北西^首欽^世判^詞と^見後^とは^物日^より^もた^り
 信^分人^建仁^二年^九大^将家^百首

世三番石下也

徳義の事^ハ人^とし^たる^の後^と見^後と^は物^日よ^りも^たり^可
 見^後と^は物^日よ^りも^たり^可
 山^花の^左欽^世判^詞と^見後^とは^物日^より^もた^り
 野^の奥^とも^みて^いは^れる^事と^見後^とは^物日^より^もた^り
 身^秘事^ハ口^傳り^ても^昔也^とい^中す^事定^家信^分
 事^ハ人^とし^たる^の後^と見^後と^は物^日よ^りも^たり^可
 野^の奥^とも^みて^いは^れる^事と^見後^とは^物日^より^もた^り
 可^レ派^りと^未身^とも^みて^いは^れる^事と^見後^とは^物日^より^もた^り
 事^ハ人^とし^たる^の後^と見^後と^は物^日よ^りも^たり^可

ぬゆりし浦浦し海しつらゆり湖以
 るへりと判りた事事りてはかかふやうり
 りんゆり一方に海しつらゆり湖以
 結ひ海邊月の若きまゆり愚旅の勝りてい
 右方の事りてくちへていりひと今ちり
 判のしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 浦乃付りかひぬりてすまふらりてい
 判りてしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 都之愚旅の難りてはかかふ
 ずもてしつらゆり浦し舟りりてはかかふ

カ六

して中を急ぎとりのしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 後成りしつらゆり浦し舟りりてはかかふ

ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ
 ちりしつらゆり浦し舟りりてはかかふ

おかしら(右) 此の月由の事とすいふ友とがうへん
ししすしとていかり由とていかり河尻橋改修
首級首首家長別表

青島のあらゆりもどがうぬとて保り取置るは
心利のしかりしはやうらん今此作者といひ述
申おし程もつこととてと語と和にら贈言もすへ
くいらたふ八百番が合也

秋の月由の事とて此の月由の事とておしり
定家判の右の神事月時由の事とておしり
と本意をを乃もといふ人ありとて侍りといふ事

秋の月由の事とて

此の月由の事とておしり
家後判の右の神事月時由の事とておしり
山内とておしり此の月由の事とておしり
今ハ此の月由の事とておしり
つとていかり此の月由の事とておしり
此の月由の事とておしり
但此の月由の事とておしり
丁此の月由の事とておしり
万とていかり此の月由の事とておしり

あつたは危も皆老老のあつたはむむのふくも
からん披落ゆめくつあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも

あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも

宝治二年九月 仙洞御款合披落之旨

交通正三位知家卿 法名 蓮性 以此状就大藏卿

建嗣卿 院奏之云々

あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも
あつたはむむのふくもあつたはむむのふくも

十

早春

北

連性

とよ今と後とくくく天の原中并くくくくくく

右橋

下野

さか娘の家の衣袖さえくまをいれしと春とす

古三

山花

北

蓮性

ゆきをて今もまゆみおをいれしと春とす

右橋

下野

見ゆの裏とてむくくくくくくくくくく

廿六番

六月時鳥

蓮性

時鳥くくくくくくくくくくくくくくく

右橋

下野

五月雨あつはつとくくくくくくくくく

廿九番

初秋風

右橋

蓮性

夫乃川流を添くとくくくくくくくくく

右

下野

いづも吹くふく風の舞とくくくくくく

廿三番

廿五

六十二番

海色月

左脇

蓮性

海原やまの地垣ひのま妙塔よるの月夜ぬりて

山形

右

下野

文折く浦く船れききとすみ後よは乃月たれ

七十五番

野宮

丸勝

蓮性

下折るあ子たやうりやさしちおれくも名の程後まじ

山形

右

下野

まじ下折るあ子たやうりやさしちおれくも名の程後まじ

八十八番

忠念忠

右

蓮性

忠念忠の忠ひよひす下野のそけとわひんひんかま

山形

右脇

下野

忠念忠の忠ひよひす下野のそけとわひんひんかま

百一番

道不道忠

丸勝

蓮性

道不道忠の忠ひよひす下野のそけとわひんひんかま

山形

右脇

下野

道不道忠の忠ひよひす下野のそけとわひんひんかま

山形

下野

卷三十七
七十六

百十四番

旅者嵐

流

蓮姓

岩子の枕乃りしうらなふいぬくまらひかしてゆき

右

下野

乃れく一乗者かす松子よ何とゆき乃麻をくちん

百十七番

社以流

丸勝

蓮姓

うらまはる山松の丸勝流をいへん又お世の勢をくちん

右

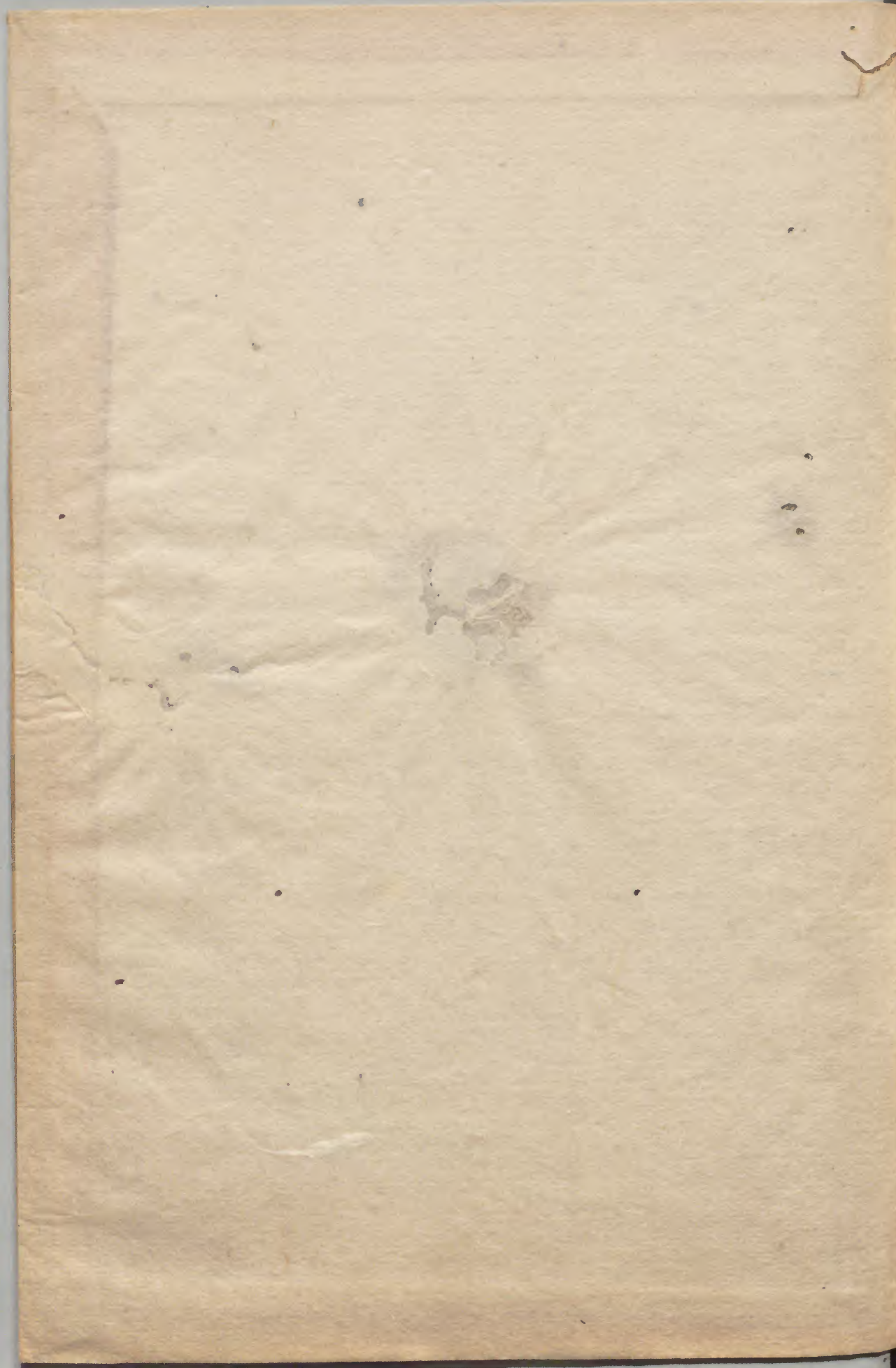
下野

子年へも流もいへん右清水にありし世の勢をくちん

右蓮性陳狀以古寫二本及御歌合校合畢



羣書類從卷第二百二十七



奉書殿為奉教二百二十五年
 五月廿五日
 五月廿五日

同
 官
 印

奉書殿為奉教二百二十五年
 五月廿五日

